

廣岡恒次郎氏文書 (2) 概要

1: 文書群番号	121004
2: 文書群名	廣岡恒次郎氏文書 (2)
3: 出所	廣岡九重郎家
4: 家業・役職等	-
5: 地名	摂津国川辺郡東難波村／兵庫県川辺郡東難波村／川辺郡立花村東難波／ 尼崎市東難波／尼崎市東難波町ほか
6: 行政区分	尼崎藩領／兵庫県第10区／東難波組戸長役場／立花村／尼崎市
7: 歴史	東難波の史料上の初見は永正年間(1504～1521)。近世は、元和元年(1615)より建部政長、同3年以降は尼崎藩領であった。 村高は「慶長十年摂津国絵図」に1206石余、「元禄郷帳」に1028石余、「天保郷帳」に1035石余とある。天和・貞享年間「尼崎領内高・家数・人数・船数等覚」には家数124軒、人数782人、「天明八年御巡見様御通行御用之留帳」には121軒、560人とある。 難波には、「難波の七姓」と称する中世にさかのぼる旧家の系譜が伝えられる。廣岡姓はこの七姓のひとつであり、近世大坂の豪商として知られる加島屋・廣岡家の系譜も、さかのぼると難波の廣岡氏につながるとされる。
8: 伝来	令和3年4月2日、廣岡松治郎氏より寄託の申し込みがあり、令和3年5月18日に手続きを完了した。
9: 史料入手先	廣岡松治郎氏 (原蔵者)
10: 点数	23点 (目録件数21件)
11: 年代	貞享元年 (1684) ～昭和11年 (1936)
12: 構造と内容	本文書群は、①浄土真宗関係書籍と②明治～昭和期の書簡からなる。 ①については、五帖の御文章がある。巻5掲載の寂如の跋文によると、貞享元年9月25日、西本願寺8世法主蓮如の説法集80を14世寂如が木版刷りして綴本にしたものである。 ほかには、親鸞著の三帖和讃(浄土和讃・高僧和讃・正像末和讃)や正信念仏偈といった経本がある。 ②については、広岡恵三より広岡松三郎に宛てた母浅子永眠の際の弔詞・供物お礼、広岡恵三より広岡松三郎宛てた養父広岡信五郎死去の際の弔詞お礼、などがある。 「廣岡恒次郎氏文書 (1)」は近世後期の村落文書であったのに対し、本文書群は家の信仰と近代の書簡に限定される。
13: 関連史料	「廣岡恒次郎氏文書 (1)」 (084001-1)、廣岡恒次郎氏寄贈の物品 (084001-2・3)、「廣岡三従氏文書 (2)」 (115018-2) など。
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	松本望